





関係業者大あわて

石城地方の一の牛乳販売量は、サツト五万三千五百本といわれ、人口割で見ると六八人に一本の割で消化されている。これをまかなう牛乳処理所は十五軒で、このうち約一割の六千本がフルーツ、コーヒークオア牛乳に廻わされているといわれるが、問題は森永明治など一部大手メーカーを除いたこの加工牛乳で国税庁の通達を見ると一本（約一月一日付で規格外品はどしどし微税の方針をたて、各管轄税務署を通じて違反業者におき牛乳をすすめることになった。このため平税務署では石城地方に市販されている各牛乳処理所の製品を抜打検査して違反してゐる製品には物品税を適用しているが、この場合撤税時期が昨年の十月、十一月以降からさかづかのはつて実施するかはいまのところはっきりしない。課税することは

神谷教授の講演会

力行会報徳社文化部長権の文化講演会は去る十三日午から平市公会堂で開いた。講師は刈馴染の東大教授、農業者総合科学研究所長神谷慶治博士で、「農業基本法と今後の農業」と題し今後の農業を守るものは農家である。最後に会裡に閉会した。

農家は農業を守れ  
尊徳は大社会主義者

近年日本の経済が世界の驚異といわれるほど目まぐるしい発展を続けており、国民所得も生活水準も年々著しく向上を示しているが、その中にあって農業の生産性や所得は土地の制約その他の自然的な懸念件もあって、他の産業と比べると向上発展の速度がおそい。そのため農家と他産業に働いている人々との所得の開きが非常に大きくなることが考えられそのままにしておくと、

本農家の次第に社会の下積みに押しやられることになる。農業は国民に食糧などを供給する大切な産業であるばかりでなく、しかも農民はわが国社会において中堅的な地位を占めており、その健全な育成をはかることが、国家経済の発展のうえからも、国民社会の安定のうえからも絶対に必要であることはどうまでもない。このようなことから三十四年八月から農業基本問題につ

いて約三千人の有識者で調査研究を重ね、これを政府案としてさらに社会党、民社党案を加えて協議した結果、**成案**を見たので「**農業憲法**」とあいつべき**農業基本法**を国会に提出する予定にもその実行の裏付けともしえる予算も十分に計上、実施の段階に入った。同法の根本的なねらいは日本の農業を企業として十分なら立つように育成するため国が責任をもつて実行することにある。

サンマ解禁始まる

今年は豊漁を期待

命。各ハマは活気をおびてきた二十トン未満の小型船はすでに十二日解禁となり、小名浜港所属の第一洋菜丸第一福恵丸の二隻がサンマ漁の第一陣として出漁、北海道釧路沖の海域で操業を始めたのに続き、三十トン以上は来月は三日から二十日以上は解禁となるわけ、このサンマ解禁とされるわけ、このサンマは漁網の手入れや集魚灯のとりつけ準備に追われ、きり

三十四萬七十三圓)と、水揚げ量は一昨年の半分に下つて成績はつたげに「くとしこそ」くちサマに寄せるハマの期待は大きい。

しかし、これも「暴落勢力」の襲撃で、金相場は、代的建築でスマートなもの。

**教育会館建設着手**

教組石城支店は百四十万円で平市亶子町(平土)に教育会館建設に着手した。東部諸業が請負で十月末完成予定。

定めたものだが、これを適切に運営して恒久的な発展をはかるため、経営規模の拡大など八項目にわたつてある。このうちバックボーンとなるのは経済、教育、福祉の三点となっているが、八項目のうち六項目は経済政策でしめられている。

あつた。だからいまのようなこま切れの小さな土地所有をできるだけ大きくし、飛地している耕地を交換分合でとりまとめ家畜を飼ひ、作業を機械にやらせるなど、農地保有の合理化、近代化をはかるもの。

この二つ所得政策。

林大臣になつていたが、さらに農業の振興を強力に推進するたため國、議會、政府、裁判所の三權が責任をもつてやることと決り、最初の政府案と比べ飛躍的に變つた。これは同法の附帯法、財政、金融、殖産を國があけて実施するものである。

十年間の日本経済の所得倍増率は大きな問題で三億六千万円が十年で兆円に達する。これを需給地方の工場用地にあつては千町歩（つち）農地八百町歩が潰されることになり、一たんつぶされた土地はどつてにもとに帰らない。

わゆる科学面だけでなく精神面をも説いているもので例えは農業だけでなく、発展している事業は動いている人たちの氣風と農業関係者の氣風とは大きな相違がある。大企業は従業員を見て生産化、事業化といふことに目覺めてお

いって、簡単にいえば、農産物で売れゆきの伸びがとまっているものを終生大事にいつまでもつづけているので、これを需要が多いものをもとんとんつくり需要の減つてゆく農産物はやめてほかのものにかゝえ、外国から入ってくる農産物で競争になるものは生産のどんとけをよくして値を安くした構造政策は、せまい土地を重箱のすみをつつくようにして早朝から夜遅くまで働いては食費が身の囲りから離れない。つまり零細経営というものが日本農業で生産の飽率をあげるためには作物をつくるものとなる土地や水の開発、利用、整備をやリ農業技術をつため、経営近代化のための資金を保証した十分な施策をほどこす。収益については重要な産物については価格の安定のためには必要な施策をとる。価格安定といふも採算のとれない安い値で固定されてはこまるので基本法では生産の事情、需要と供給のバランス、その他の物価、経済一般の情勢について弾力性ある政策をとる。となつてゐる。これを誰が実施するかについては最初が農

どにであつたか、欧米並にいはゆる近代的に解決するだけであつたか、その近代化した欧米でも農業経営には多くの問題を殘しており外国でも農基法をつくつてゐる。

日本の場合早く近代的にするのと近代的にしても駄目の場合との二つの問題をかかへてゐる。例えば人間はどうせ死ななければならぬが、死ななければならぬといつてしまつてはいけなないのでつうしたのが農基法の内容になつてゐるので、いろいろなものの比判はあつてなかなか難しい問題をもつてゐる。

財界では外国から安い農産物を買つて外国に化学製品などを輸出した方がよいと考えている。審議会でこの話がまづ先に出る。財界の思ひ通りのことを政府にやらせているから、日本の農業を守つていくのは民間でやらなければならぬ。これを農業内部に見ると、二宮尊徳は農業とは天地の大道にあった経営をしていかななくては減ひつしまつていく。しかして天地の大道と云ふところの工夫が、

安いものを買ひ高く売りたいと考へている。この考へは相違があらゆる面にてくるものなので、いわゆる尊徳の「人のものすてぎるもの」は穀徳の根本思想になつてゐる。

ソ連のミコヤン副首相が日本に來たが、モスクワ乗り入り、れさえ拒絕するような社会主義など尊徳の主義と比較せしむらお話にならない。尊徳は晩年「云えないことがある」とよく言つていたが、今日から考へるとそれは大社会主義者とも大資本主義者とも云へる偉大な構想を持つていた。

が弱くサンマの南下が早まると「近海に寄らず沖合の魚をさそった」との悲観的意見をききとった」との悲観的な情報もあり、全国のサンマ業者はサンマ調整組合を結成し漁獲量や価格の調整をはかることになり、不漁で価格の暴落の立たないときはこれらの業者を保護する補償制度を立てたことになっている。

蓬来医院で  
新築し移転

家具類を御注文に応じ  
製作しております

平市一丁目角(大樋小路通り)  
すみに家具店

工場 平市尼子町三四専売公社前  
電話 四七一二番

ホンダサブベンツ  
トハツアロー

夢の実現・豪華な車が  
分割払い！

各車中古車在庫あります

佐藤輪業

TEL 6452  
平市目目町 18 いちき貨物前

甘左郎焼  
アイスクリーム

真根井菓子店

平市銀座通り 電四〇二五

県下最大のコース

**実地試験免除！**

福島県公安委員会指定  
福島県平自動車教習所

内郷市ヘルセンター裏  
電 六七二三

大塚の牛豚肉  
お惣菜

平市提ノ内電 二六五八  
湯本上町電話(常磐) 二九八三

お部屋にあらう

家具類を御注文に応じ

聚樂館